

令和 7 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

川上から川下までの関係者が連携した豪雪地のブナ林経営

○氏名又は名称 大白川生産森林組合（代表 浅井 守雄）

○所 在 地 新潟県魚沼市

○出 品 財 経営（林業経営）

○受 賞 理 由

・地域の概要

魚沼市は県の南東部に位置し、森林率は87.5%、うち民有林は51,949haある。急傾斜地が多く豪雪地帯のため他の地域ほど拡大造林が行われず、森林の81.7%がブナを始めとした広葉樹の天然林となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

同組合は、昭和 47 年に集落の共有林 1,472ha を受け継いで設立された。「100 年先もブナ林を維持し、ブナ林業を持続する」との思いで、翌年から間伐によるブナ林の改良を開始した。複数回の間伐を経て、平成 27 年頃から新潟大学の紙谷教授と共にブナ林育成とブナ材の高付加価値化への挑戦を開始した。平成 30 年に森林経営計画を樹立し、地元森林組合と地元建設会社の協力も得て毎年 2ha 程度の利用間伐を行い、200～300m³ のブナ材を安定生産するとともに、スノービーチブランドでの良質な木材製品の販売につなげている。

・受賞者の特色

（１）林地保全と資源循環の取組

緩傾斜地では、車両系の林業機械により間伐材の搬出を行っているが、路網が開設しにくい急傾斜地や沢沿いは雪上で作業を行い、林地の保全を図っている。また、ブナ林の更新については独自の更新基準を定め、稚樹の密度や成長を確認し、更新基準を超えた場合に小面積皆伐（更新伐）を行い、稚樹の成長を促進させている。

（２）材の高付加価値化と需要の創出

ブナ材の利用にあたっては、乾燥時に非常に狂いやすい、ブナ特有の腐朽菌等によりダメージを受ける材がある、豪雪による根曲がり部が低質材として扱われる等の課題があった。これに対し、材木店や木工所等に働きかけて乾燥方法の試行を重ね、ダメージを受けた材を「生態デザイン」と名付け個性として取り入れた家具材の製作、根曲がり部を活用したスポーツ用品の生産などの試みにより課題を克服し、用材からおが粉、薪材までの利用を通じ、数々の製品を生み出し、ブナ材の高付加価値化につなげている。

・普及性と今後の発展方向

川上から川下までの関係者が連携し、ブナ林の持続的経営とブナ材の有効活用を進める本取組は、県内の生産森林組合や広葉樹天然林の経営体の模範になっている。

一方、大白川地区は高齢化により地区内における労働力確保が難しいことから、組合は、今後、関心のある U・I ターン者の移住等に向けて働きかけていきたいと考えている。本取組によって、地域外から人を呼び込んで理解者や関係人口を増やしながら、独自のブナ林業を継続・発展させ、経営の安定化と集落の維持・活性化につなげていくことを目指している。